

## 2025年国際博覧会検討会（第3回）

### 議事要旨

開催日時： 平成29年3月13日（月）16:30～18:30

開催場所： 大阪府 咲洲庁舎2階咲洲ホール

### 出席者

石毛委員代理（赤星様）、井戸委員、大崎委員、尾崎委員、尾山委員、蔭山委員、樫畑委員、加藤委員、古賀委員（座長）、澤田委員、渋谷委員、角委員、瀬名委員、土屋委員、鳥井委員、橋爪委員、福井委員、増田委員、松井委員、松下委員、森委員、森下委員、山田邦雄委員代理（吉野様）、山田義仁委員代理（作宮様）、吉村委員

### 議題

#### 1. 「2025年国際博覧会検討会報告書（案）」

##### 第一部 2025年国際博覧会のコンセプト」についての討議

##### 《開催意義について》

- 大阪で提案している「健康」が具体的なかたちで書かれていない。多くの国が伝染病や食糧難の課題を抱えるなかで、それに対する回答を出そうという気概が見えない。「持続的な健康を確保するために」や「高齢化が進む一方で、健康問題を解決するため」など、言葉を補足する必要があるのではないか。

##### 《基本理念について》

- どのような時代であっても、人間が主役であるということを外してはいけない。テクノロジーが進化しても、「やっぱり人間でよかった」ということが実感できる社会でなくてはならない。そのためにどうあるべきか、どう行動すべきか、どんな社会であるべきかが表現できている必要がある。
- ICT・AIなど今の技術を進化させていく一方で、人間と人間の関わりも一緒に考えていくというイメージを持てた。そこをもっと上手に訴求できると、疎外感や取り残され感を払拭できるのではないか。
- 主な課題の例として「平均寿命と健康寿命の差」と記されているが、それよりも現状の健康維持、食糧問題に面している国が多い。そのような国にも配慮が必要ではないか。

##### 《テーマ・サブテーマ（案）について》

テーマ案「いのち輝く未来社会のデザイン（Designing Future Society for Our Lives）」については、概ねの委員から合意を得られた。その上で、述べられた意見は以下の通り

- 英語でみると形容詞が2つかかっている。Future SocietyとOur Livesのどちらが地球規模の課題であるのかをはっきりさせた方が、選挙の時にはわかりやすい。
- パリと比較すると、現状のテーマ案は、問題提起が少しぼやけている。168カ国、発展途上国にも共感をしてもらえるようなワーディングの工夫をした方がよい。
- 1970年の大阪万博、2005年の愛・地球博でも、テーマの大切なキーワードとして調和・ハーモニーを掲げ世界に発信してきた、それを引き継ぐところが必要なのではないか。
- 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマが万博の一過性のものではなく、根付き広がることが大切だと考えている。

### 《2025年国際博覧会実施の方向性について》

- テーマには「未来」と記されているが、報告書に書かれている内容は、若干現在の延長線上のように見える。2025年から先の未来を捉えていることが認識できるように工夫して欲しい。
- あらゆる想像力を生かし、2025年あたりまえになっていること、解決していないこと、普遍的なことを整理した上で、提示していくことが重要ではないか。
- 「こんなものを見てきた」ではなく「こんなことをしてきた」と言われる万博にすることが大切。そしてそのハードルは低くなければ成立しない。
- 若い世代は全く違う価値観を持っている。10年後に彼らがどのようなことに興味を持ち、価値を感じるかをもう一度検証した上で考えていくと、未来の万博という感じがするのではないか。
- 会場体験においても、「人間でよかった」と実感でき自信が持てる、あるいは未来を信じられる、そんな万博でありたい。特に、五感を刺激するインタラクティブなものは、人を惹きつけることができる。
- 「常識を越えた万博」とあるが、内容はまだ常識に捉われた感じがする。今の流行ではなく、2025年に流行をつくり出すような技術を持つ研究者や開発者、クリエイターたちの意見をもっと取り入れ、登用していただきたい。
- 「常識」という言葉が、いつの時点の常識かが分からない。「常識を越える」というのは、何の常識であるのかを書き込む必要がある
- スポーツ以外にも、クールジャパンを代表するアニメなどを活用し、未来社会のアニメ体験などもいれれば面白いと思う。
- 「待たない万博」は不可能だと思うが、待っている間に楽しめる万博は可能だと思う。そこにエネルギーを使うべきではないか。
- 待っている時間が苦にならないようなアイデアを用意し、来場者が「楽しかった、幸せだった」と思えることが、明日への健康にもつながる。
- 1940年に予定されていた東京万国博覧会でも東京と横浜の連携を計画し、愛・地球博もサテライト会場を設けている。サテライト会場のことをどの段階で、どのような位

置づけで計画するのは、今後の検討事項だと思うが真剣に検討することが必要ではないか。

- 「誰もが参画しやすい万博」のひとつとして、学生ベンチャーのスタートアップや投資やビジネスになるといった観点で広げていくと面白くなる。
- 会期前後における関連イベントの取り組みのひとつとして、東京国際映画祭を東京と大阪で同時開催することを検討していただきたい。
- 国際連合の「持続可能な開発計画（SDGs）」などと連携し、コンセプトを打ち出していった方がいいのではないか。そのための情報分析と国連へのアプローチ、それに加え大阪には「世話焼き」があふれている街であることを上手くアピールしていけば、大阪・関西から世界や未来を意識することにつながるのではないかと思う。
- EUの経済が不調にあるなかでアジアは期待を持たれている。関西に行けばソリューションがある、行けば得をしそうというニュアンスがあるといいのではないか。

## 2. 「2025 年国際博覧会検討会報告書（案）」

### 第二部 2025 年国際博覧会の円滑かつ効果的な開催に向けた考え方 についての討議

#### 《開催場所について》

- 広大な埋め立て地である夢洲の魅力。人工島であることを、そのスケール感も含めて夢洲だからできることをもっと強調した方がいいのではないか。
- 人工島で開催するゼロからつくる万博だからこそ、開催して終わりではないということもPR材料にしていきたい。
- 100haのうち1/3（Bエリア）に建物を建てることできないことに、BIEや各国が不安をもつ可能性がある。アクティビティエリアという考えもあるが、パビリオンを建てることのできるのかがBIEにとっては一番重要になる。Aエリアの67haもかなり使い勝手が悪いと思われることから、モデルプランをつくりBIEにプレゼンテーションをした方がよい。

#### 《輸送・宿泊計画について》

- 日本はプライベートジェットやクルーザーによる入国や移動が不便な国である。富裕層ビジネスを積極的に行っていこうと考えるのであれば整備が必要。

#### 《関連基盤整備について》

- 通信や下水道、エネルギーなど、開催後もレガシーとして街づくり構想に生かせるものについて検討をしていただきたい。

#### 《開催経費について》

- 資金スキームに関する検討の場をつくって欲しい。今のうちから民間資金を集める方策を検討する必要がある

### 3. 今後の活動に向けて

- 報告書は頭脳明晰な人には理解できるが、誰でも理解できるようになっているべき。
- 大阪・関西らしい笑いのある提案や遊び心を持った誘致は積極的に展開した方がよいと思う。笑いが健康につながる点においてもコンセプトと合致している。今後は英語とフランス語も念頭に入れながら、各国に伝わるユニークさが出せるようになるといい。
- 大阪・関西を中心に国内において万博誘致活動を盛り上げるためにも、大阪らしさを大事にし、民間からアイデアを募集するような活動もあっていいのではないか。
- 夢洲を「ユメス」と呼ばれないように、プロモーションをする必要がある。
- 今後BIEの総会に向けてのプレゼンテーションでは、2025年の大阪万博を仮想的に見せるようなプレゼンテーションが大事になる。
- 今後は報告書をベースに具体的な検討に入るが、経済産業省と誘致委員会の連携をしっかりと、タイムリーに検討状況を共有し、PR戦略を立案して欲しい。

#### **お問合せ先**

商務流通保安グループ博覧会推進室

電話：03-3501-0289

FAX：03-3501-6203